

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	職員全員でこれまでの理念の見直しを行い、明確にしている。地域や利用者のニーズにより現状に合ったものをつくっていききたい。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	理念の具体化に向けて職員全員で、行動指針「みんなで必ず守ること」を作成し実践している。また、新人研修などでは、文章化された方針を提示し職員教育を行っている。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	家族の方には、今まで暮らしてきた環境やかかわりの大切さを話し、入居前の生活が継続できるよう取り組んでいる。また、運営推進会議のメンバーに利用者の暮らしぶりを知ってもらうよう、各行事に参加してもらっている。	
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	散歩や買い物に出かけ、挨拶をしたり馴染みになった近隣の方とは気軽に話をする機会がある。徐々に馴染みの関係が増えてきている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の文化祭やお祭り、井手さらいなどに参加している。また、保育所、地域の活動をしているボランティアの方が、随時慰問に来てくれる。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	法人職員が認知症サポーター養成講座のキャラバンメイトに登録し、認知症の理解のために活動している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目標を知り、全職員で評価をしている。外部評価については、ミーティングで報告し各ユニットで改善計画を立て、改善への具体案の検討、実践に努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みを見てもらえるよう、遠足、文化展、餅つき大会などの行事の参加や、防災訓練の様子を見学してもらい、より理解し、意見をもらい次回につなげている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の地域包括支援センターが開催する連絡会に出席し、情報収集や情報交換を行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、職員が理解できるよう勉強会や外部研修に参加している。これからも機会をとらえ学習していくと共に、必要に応じて活用できるよう支援していきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について勉強会を行い、理解を深め虐待がないよう努めている。一人ひとりが精神的なストレスを抱き続けないう、一人ですべてを抱え込まない、また、自らを追い込まないよう支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時に、ケアに関する考え方や取り組み、退所を含めた事業所が対応可能な範囲について説明している。解約の場合、家族には十分な説明と今後の行き先について話し合い、理解、納得してもらっている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の言葉や態度から真の思いを察する努力をし、リーダー会で取り上げ話し合いをしている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会時や電話などで、利用者の近況報告をすると共に状態変化が見られた時は、細かく報告するよう努めている。暮らしぶりについては、写真などでも分かるようにしている。金銭については出納簿で随時確認してもらい、必要に応じてコピーして手渡している。ほか家族会を利用し報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>事業所に意見ポストを設置、公的申立機関に苦情申立先があることを契約書を結ぶ時に話している。些細な意見も真摯に受け止め、解決方法、対応策をリーダー会で検討し職員に周知している。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員の意見や提案はリーダーが聴き、リーダー会に取り上げるようにしている。また、リーダーは日頃からコミュニケーションが図れるよう心がけている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>行事や外出など状況にあったシフトを組んでおり、必要に応じて柔軟に職員の配置を考えている。職員の病気など急な休みにも対応できるよう、人員の確保に努めている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的には各ユニット職員は固定化し、馴染みの関係が継続できるように心がけている。新しい職員が入る場合は必ず利用者へ紹介をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修・講演後はその内容をミーティングの場で発表してもらっている。また、研修を受けた職員が講師役となり勉強会を行い、当施設でできることは実践している。報告書は全員が閲覧でき、いつでも確認できるようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム事業所との意見、情報交換は電話や訪問時に行っている。	○ 相互評価事業を行なう予定になっている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	雇用管理面では介護能力の向上に向けた研修、認知症理解を深める研修に行ってもらったり、緊急時対応体制の整備、勤務の要望を聞くなどしている。また、リーダーは悩みの聞き役となり、ストレスをためない支援をしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は頻回に現場に顔を出し利用者や過ごしたり、職員の業務状況を把握している。もてる力を活かせるよう支援している。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の困りごと、何を求めているかなどを聴き取ったり、本人の話したいことを受け止め理解しようと努めている。また、施設見学をし施設の雰囲気を感じ取ってもらい、少しでも不安の解消に結びつくよう心がけている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族から話をよく聴き、求めているものを理解し、事業所としてどのような対応ができるか話している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族の状況、思いなどを確認し、専門医への受診アドバイスや介護サービスのみでなく、医療を含め他にも利用できるサービスの説明や連絡などを行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前面接から入居までの期間が短く、暫定の介護計画作成はしているが、利用者の状況や反応、家族との話し合いから入居1か月後見直しを行い、利用者にあったサービスになるようにしている。また、入居日には家族に宿泊いただき、安心できるような配慮を行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	台所仕事や畑仕事の好きな方と、協働の喜びを分かち合えるよう、声掛けの工夫をしている。職員が利用者に相談する場面を持つことで、人生の先輩としての意見や、いたわりの言葉をかけてもらっている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時に、利用者の近況を伝え情報の共有に努めている。また、認知症の理解が得られるよう家族に働きかけ、一緒に対応を考えるようにしている。遠方の家族にも近況報告を行い、本人を支えるために家族と共に相談している。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	関係が希薄である家族も、職員が家族の思いを受け止めることで心を開き、月に一、二度ではあるが面会や電話をしてくれる。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別支援の中で、自宅へ帰宅するようになり、近所の方がホームに訪ねてくれるようになった。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員が調整役となり、気の合う利用者が過ごせる場面をつくることで、友達関係ができてきた。心身の状態や気分、感情で日々変化することがあるので、注意深く見守るようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	身体的な都合で当事業所を利用できなくなった方への、次の利用施設へ面会や見舞いに行くようになっている。利用施設の相談員を通じて情報を得ようとしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、一人ひとりの思いや希望を把握するように努めている。意思疎通が困難な方の場合、家族や介護者が本人本位の視点に立ち考えるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、関係者と馴染みの関係を深め、プライバシーに配慮しながら、情報の蓄積に努め本人の全体像を知る取り組みをしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの生活リズムを把握し理解に努め、もてる力を十分に発揮できるように、職員間で話し合う機会を持つようになっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人本位の考え方、職員の気づきやアイデア、家族の意向やアイデアを反映し、個別の介護計画作成に努めている。本人の生の声を聴くことが大切であることを話し、反映できるよう取り組んでいる。	○	これまで家族の意向やアイデアを反映することが多かったが、本人の生の声を聴くことが大切であることを話し、反映できるよう取り組み始めている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じて見直しをするとともに、現状に即していないと思われる場合、また、本人や家族の要望や利用者の状況に変化が生じた場合には、実情に応じたケアにつながるよう見直しをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康チェック表でバイタルサイン、食事量、排泄など身体的状況を記入し、個人記録にはサービス内容のチェックと、職員の気づきや利用者の状態変化を記入して、情報の共有をしている。これらを基に介護計画の見直しをしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	往診や理容訪問があり希望者は利用できる。状況に応じて、通院介助や外出支援などを行っている。その他医療連携体制を活かし医療処置を受けながら、生活の継続と健康チェック、アドバイスなどにより、個々の安心につながるよう支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員が敬老会祝いに訪問してくれ近況報告することがある。警察、消防、タクシー会社などの資源を活用し、安心・安全に生活できるよう支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	社会福祉協議会ボランティア、地域包括支援センターボランティアがあることは知っているが、必要に応じて利用していきたい。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	利用者に成年後見制度、日常生活自立支援事業の必要性を感じ、相談に行ったことがある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時あらかじめ家族と受診病院について話をしている。希望するかかりつけ医を継続してもらっている。新たに受診の必要のある場合は家族と相談して決めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さりげない声掛けや口調、態度に気をつけ、対応するように努めている。個人情報については、電話での問い合わせ、来訪者に本人のプライバシーに関する事など話さないようにしている。	○ プライバシーに配慮した声掛け、態度については、職員同士が話し合うことができたり、自分の態度を振り返ることができるような機会が常に持てるようにしていきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定ができる人、できない人がいるが、できる人には希望を聞く場面づくりを行っている。おやつなどは好きな物を選んでいただける場面をつくっている。	○ 自己決定できない人も優先的に選べる場面づくりを工夫していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れや、業務のスケジュールはあるが、時間で区切らないようにしている。利用者のペースを崩さないように配慮しながら、できることはしていただいている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	季節に合った服装、外出時の身だしなみには気を配っている。月一回の散髪を利用し、本人の希望に沿えるよう支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付けなどは、利用者と共にを行い、食事も同じテーブルを囲んで、楽しくできるよう雰囲気づくりをしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	職員は、一人ひとりの嗜好物を把握しており、本人の状況に合わせて楽しめるよう支援している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、時間での声掛け誘導を行い、トイレでの排泄につなげている。また、日中布パンツ、夜間リハビリパンツと使い分け自立に向けた支援も行っている。排泄行為の分からない方には、簡単で短い言葉での声掛けを行い、動作遂行ができています。	○	排尿障害のある方には、家族の理解を得、専門医の受診を検討していきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	各々の好みの湯加減や時間帯を把握しており、ゆったりと利用者のペースに合わせて入浴できている。一人の職員が脱衣、洗い、着衣の一連の介助に入り、不安感を解消している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない人については、24時間シートを活用し、生活リズムの把握に努め日中の活動を増やすなどの対応をしている。自ら休息のコントロールができない方については、体調に十分配慮し日中休息を取れるように努めている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりに合った楽しみや役割を把握し、その人に合った仕事をしてもらい、感謝の言葉を伝えている。その人が行きたいタイミングで散歩の声掛けができ、気晴らしができています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心される方には、家人に紛失の可能性も十分理解していただいたうえで、持っていてほしい。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩など外出する機会をなるべく多くするよう心掛けています。個々の行きたい場所を把握し、その人の習慣や楽しみごとに合わせて外出できている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個別ケアとして、帰宅支援を行っている。家族の方にもお願いし、面会時に外出していただけるよう支援している。外出ノート作成により、外出時の歩行状態や本人の楽しまれている様子が把握できている。	○	職員とマンツーマンでの外出支援を行えている。また、コミュニケーションを図るため、利用者が皆そろっての外出の機会を増やしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や親戚の方と話ができるよう電話をしやすい雰囲気づくりや、他者に聞かれないような落ちつける場所の提供をしている。家族がホームに電話しやすい雰囲気をつくっている。電話をかけてくださる家族が増えてきた。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族などの訪問時はお茶を出したり、居室内に椅子を持ち入れたり、過ごしやすいよう配慮している。意思疎通困難な方には、職員が間に入り会話を持つなどの配慮もしている。	○	帰宅支援時、近所の方とお話をする機会をつくり、気軽に訪問していただける雰囲気や声かけをしていきたい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心に月一回のミーティングの中で勉強会を継続的に行い、身体拘束についての理解を深め、拘束をしないケアに取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中開錠しており自由に入出入りができる。外に出る可能性があることを知り、一人ひとりがどこにいるか把握すると共に、一人で出かける方には呼び止めず、そっと見守りをするように努めている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はフロアにいる職員が見守っている。夜間は個々の状態に合わせて、頻回な巡回などの対応を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管場所を決めているが、利用者の状態に合わせて場所の変更を行うこともある。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人ひとりどのようなリスクがあるか話し合い、知識を学んだ対応への工夫をし事故防止に努めている。また、ヒヤリハット報告書、事故報告書を作成しリスクカンファレンスの開催や、ケアプランに反映するなどその都度検討している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員の不安を取り除きスムーズな対応が行なえるよう、年間計画を立て定期的に訓練を行っている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災・地震・防水害マニュアルは作成している。避難訓練を実施し改善すべき点は、安全委員会を中心に話し合いを行い周知している。また、防災頭巾を作成し訓練に備えている。飲み水の備蓄も行なっている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者一人ひとりについて把握しており、リスクの高い場合は家族に対応策を説明している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段と違う様子があれば、バイタルサインのチェックや記録を残し、申し送りで伝え職員がより注意をして、状態を観察できるようにしている。気になる症状があれば医師に相談して指示を受けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法・用量については個人記録に記入し、薬の内容はいつも目にする薬箱表に貼り確認している。利用者の状況変化は個人記録に残し、医師に伝えている。内服の変更があれば、申し送りノートを活用し全員に周知している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材、乳製品を取り入れ料理の工夫をしたり、散歩や体操、緩下剤を使用する場合でも、医師に相談しながら個々に合うものや量の調節をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの実施により清潔は保持できている。口腔内の異変などには、すぐ報告できるシステムを取っている。自身の歯が残っている方、自立で歯磨きができる方は歯科往診により状態把握できている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事の摂取状況チェックを毎日行い、食事量に応じて個別に支援している。水分摂取量の少ない人には、努めて声掛けし、本人の好きな飲み物を提供している。利用者の病状に合わせ特別食は用意していないが、代替品提供の工夫をしている。</p>	<p>○</p> <p>水分摂取量の少ない人には、工夫した飲み物(ORS)を用意し、1ℓ/日の摂取に心がけている。</p>
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>マニュアルを作成している。季節的に情報収集をして早期発見、予防に努めている。また、その都度個々の状態に合わせた対応をしたり、インフルエンザについては利用者、職員共に予防接種を受けている。朝礼で注意を促したり、勉強会を繰り返し行い予防に努めている。</p>	
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>まな板やふきんなどは毎日消毒し、調理器具、冷蔵庫、台所周りのはこまめに掃除をしたり、熱・アルコール消毒を行い衛生管理に努めている。食材については先入れ先出し、生ものは新鮮で安全なものを求めている。</p>	
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>			
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関内は利用者の方が、スムーズに出入りしやすいようスペースをとっている。立ったままで靴を履いたりするのは危険なので、椅子を置くなどして安全性にも気をつけている。</p>	
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>室内装飾を季節に応じて変えている。リビングが広い間仕切りなどをして、休息できる所、食事をする所とに分けている。</p>	
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有スペースに、大・小2箇所のくつろげるスペースをつくり、気分や状態に合わせて利用できるようにしている。また、死角になる箇所もつくるようにしている。利用者の心身の状態を常に把握するよう心がけ、その都度共有スペースの配置に気を配っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたダンスや鏡台など生活のスタイルに合わせて、用意できるよう本人や家族と相談しながら環境づくりを行っている。また、仏壇、写真など大切なものを持って来ていただき、安心して過ごせるよう支援している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フロアでは、冷暖房が一箇所だけに効かないよう、高い位置に扇風機を付け空気を循環させている。清掃時には窓を開け換気を行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体の状態に合わせ、椅子の高さや背もたれなども工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人にとって何が分からないのか、どうすれば分かるか常に職員間で話し合っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先に椅子を置き、外気浴を楽しんでいる。また、ウッドデッキにおいても、外気浴や歌を唄ったりと集いの場所になっている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

個別支援に力を入れて取り組んでいる。

家族に声掛け、可能なら自宅の様子を見に帰っている。また、家族が遠方で独居だった方なら職員と自宅に帰るといように、帰宅願望の軽減や本人の安心に結びつくようにしている。自宅では掃除や草抜きをしたり、近所の方々に会ったりしている。近所の方からは昔の暮らしぶりが聞けたり、本人の言葉で昔を思い出し話ができるといったことで暮らしの把握ができる。

これからも地域とのつながりが継続できるよう支援していきたい。